

令和5年度

第1回 摂津市健康づくり推進協議会

1 日時 令和5年7月27日(木)14:00～16:00

2 案件

【議題】

1 まちごと元気！健康せつつ21(第2次改訂版)計画進捗(資料1)
(令和4年度実績及び令和5年度事業計画)

2 データヘルス計画について(資料2)

【その他 情報提供】

・まちごと元気！健康せつつ21(第3次)計画について

1 生活習慣病の早期発見・重症化予防

資料 1

(1) がん検診の推進

目標	
○がん検診の受診率向上を図る。	
○がん検診の結果、精密検査が必要な場合はその結果を把握するとともに、未受診の場合は医療機関で精密検査を受けるよう促し、がんの早期発見・治療につなげる。	
○検診受診率の向上、早期発見・治療により、がんによる死亡が減少する。	

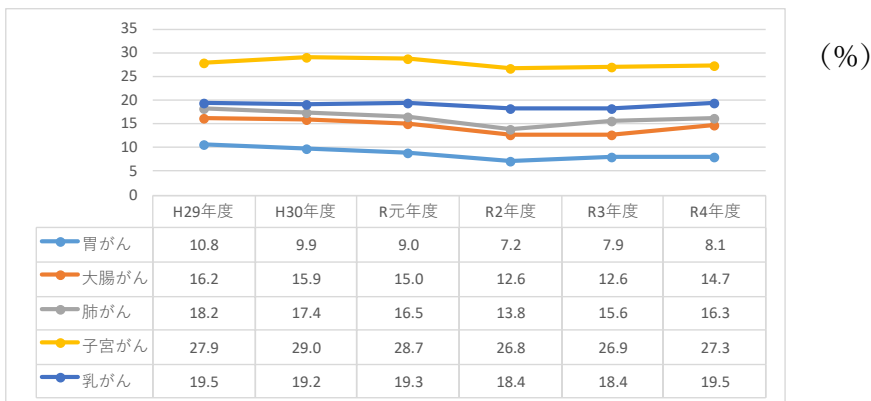
項目	目標項目	H20-24	H25-29	目標値
3	悪性新生物 SMR (標準化死亡比) 男	109.5	114.0	100
	悪性新生物 SMR (標準化死亡比) 女	102.0	108.5	未滿

※次回更新は令和 7 年度

項目	目標項目	H29 年度 (2017)	H30 年度 (2018)	R元 年度 (2019)	R2 年度 (2020)	R3 年度 (2021)	R4 年度 (2022)	目標値
4	胃がん検診 受診率	10.8%	9.9%	9.0%	7.2%	7.9%	8.1%	40%
5	肺がん検診 受診率	18.2%	17.4%	16.5%	13.8%	15.6%	16.3%	35%
6	大腸がん検診 受診率	16.2%	15.9%	15.0%	12.6%	12.6%	14.7%	30%
7	子宮頸がん検診 受診率	27.9%	29.0%	28.7%	26.8%	26.9%	27.3%	35%
8	乳がん検診 受診率	19.5%	19.2%	19.3%	18.4%	18.4%	19.5%	40%
9	がん検診 精密検査受診率	81.5%	89.0%	87.4%	89.7%	88.3%	R6 4月確定	90%

※R4 年度受診率は暫定値

図表 1 がん検診受診率推移



図表 2 がん検診精密検査受診状況（胃・大腸・肺・子宮・乳がんの合計）

	対象者数	受診者数	受診率	要精密検査者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率
H29年度	101,919	18,304	18.0%	799	4.4%	651	81.5%
H30年度	101,919	14,433	14.2%	882	6.1%	785	89.0%
R元年度	101,919	13,305	13.1%	653	4.9%	571	87.4%
R2年度	101,919	11,496	11.3%	503	4.4%	451	89.7%
R3年度	101,919	12,721	12.5%	566	4.4%	500	88.3%

【令和4年度計画】

- ・がん検診受診勧奨チラシの配布
- ・がんの早期発見、早期治療の必要性の周知
- ・乳がん検診実施医療機関の拡充
- ・受診率が低い地域でのバス検診実施

【令和4年度取組みと評価】

- ・昨年同様、若い世代の受診率向上に向けて小中学校より保護者向けにがん検診案内チラシを配布し、受診勧奨を実施した。胃・大腸・肺がん検診の受診者割合としては、どのがん検診も50歳代が向上した。
- ・検診未受診者への受診勧奨の圧着ハガキによる個別通知を10月上旬一斉発送したが、受診勧奨後の受診率が伸びなかった。下半期に予約者が重なり、受診希望日に予約できなかった可能性がある。
- ・乳がん検診実施医療機関が3機関増え、検診の受診機会が拡大した。
- ・受診率の低い地域で胃・大腸がんバス検診を実施し、受診者のうち約6割～7割が近隣住民であり、この地域の受診率向上につながった。
- ・要精密検査者で再検査未受診者へ定期的に受診確認や受診勧奨を実施し、半期に1度は医療機関への照会し追跡調査を実施した。
- ・新型コロナウイルス感染症流行による受診控えがあったが、直近5年間の推移をみると、流行前に近い受診率まで改善している。しかし目標値より依然低い状況である。

【令和5年度に向けた課題】

- ・がん検診受診率の向上
- ・受診機会の拡大
- ・精検受診率の向上

【令和5年度計画】

- ・引き続き、各種イベント等でのがん検診受診勧奨チラシの配布
- ・さまざまな機会を通じて幅広い世代へのがん検診の必要性の周知啓発
- ・未受診勧奨ハガキの効果的送付方法を見直し下半期と上半期に分散して送付
- ・乳がん検診実施医療機関の拡充
- ・要精密検査者への定期的な受診勧奨アプローチ
- ・協会けんぽ被扶養者対象の特定健診会場での市の大腸がん検診を3年計画で実施

(2) 特定健診・特定保健指導の推進

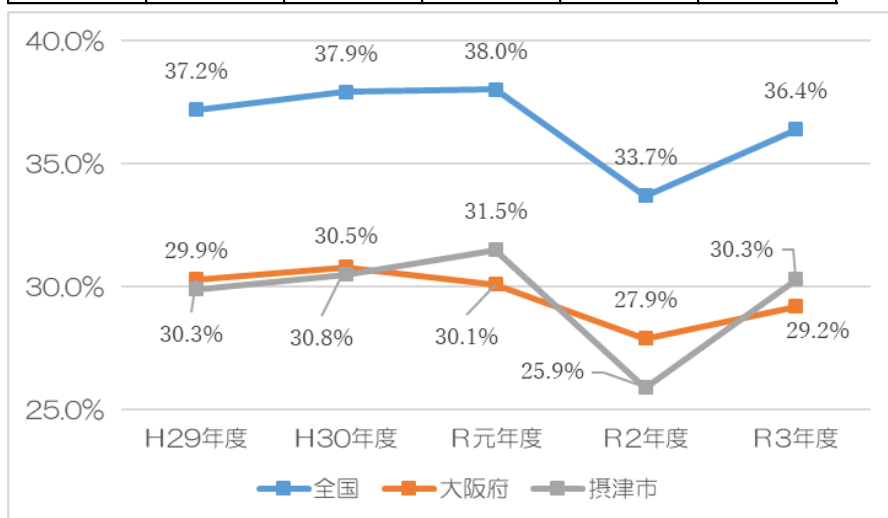
目標	
○市民が自らの健康状態を把握できるよう、特定健診の受診率向上を図る。	
○特定健診の結果、肥満・高血圧・高血糖・脂質異常などの所見があった場合などは、保健指導により要因となっている生活習慣を改善し、肥満の解消や疾病予防を行う。	

項目	目標項目	H29年度 (2017)	H30年度 (2018)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	目標値
10	特定健康診査の受診率	29.9%	30.5%	31.5%	25.9%	30.3%	31.4% (暫定値)	60%
11	特定保健指導の実施率	48.1%	43.0%	49.0%	69.8%	43.8%	52.8% (参考値)	60%

※令和4年度の法定報告は11月に確定。暫定値で報告。

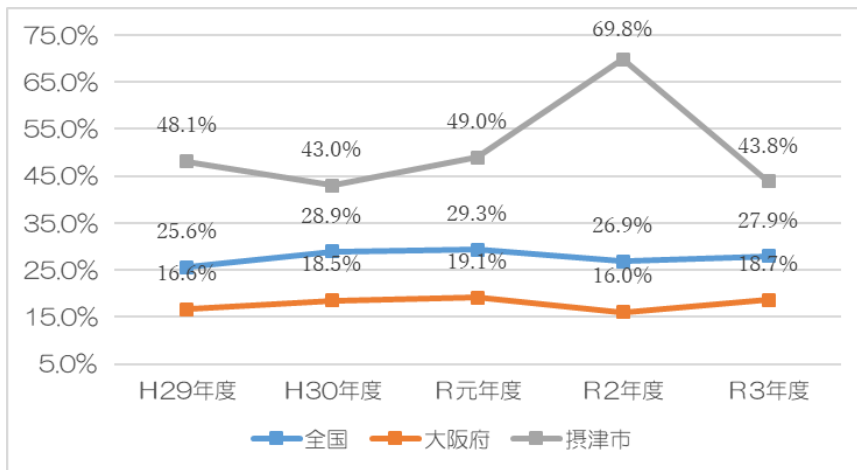
図表3 特定健康診査の受診率（法定報告） (%)

	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
全国	37.2	37.9	38.0	33.7	36.4
大阪府	30.3	30.8	30.1	27.9	29.2
摂津市	29.9	30.5	31.5	25.9	30.3



図表4 特定保健指導の実施率（法定報告） (%)

	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
全国	25.6	28.9	29.3	26.9	27.9
大阪府	16.6	18.5	19.1	16.0	18.7
摂津市	48.1	43.0	49.0	69.8	43.8



【令和4年度計画】

(特定健康診査)

- ・出張型集団特定健診の実施の経常化を図る
- ・AIを活用し、ナッジ理論を取り入れた受診勧奨ハガキの送付などの新規事業も実施し、受診率向上を図る

(特定保健指導)

- ・健診当日における簡易な面談（プレ指導）を引き続き実施し、利用者増を図る

【令和4年度取組みと評価】

(特定健康診査)

- ・電話での受診勧奨やAIを活用した受診勧奨ハガキの送付等の効果もあり、暫定値ながら令和4年度の受診率は新型コロナウイルス感染症前の受診率と同水準まで回復した。また、令和5年2月には出張による集団特定健診も実施した。

(特定保健指導)

- ・対象者へ健診結果説明会の実施及び参加案内文書の送付を行い、不参加者には電話による参加勧奨を実施するとともに、電話や面談等による指導を行った。

【令和5年度に向けた課題】

(特定健康診査)

- ・直近の健診受診率は上昇傾向にあるものの、府内でも受診率は下位となっているおり、目標値と大きく乖離がある。

(特定保健指導)

- ・特定保健指導実施率は府内でも上位であるが、特定保健指導の対象者にもれなく指導が行き届くように、効果的な参加勧奨手法を検討する必要がある。

【令和5年度計画】

(特定健康診査)

- ・令和5年度についても出張型集団特定健診を実施
- ・引き続きメッセージ訴求に力を入れたナッジ理論を活用した受診勧奨等の実施を通じて受診率向上を図る。

(特定保健指導)

- ・健診当日における簡易な面談（プレ指導）を引き続き実施し、その他の効果的な勧奨手法を検討

(3) 循環器疾患対策の推進

目標	
○特定健診の結果、肥満・高血圧・脂質異常などがあった場合には、生活習慣の改善及び必要時に医療機関受診を促し、重症化を予防する。	
○生活習慣病予防に関する情報発信を積極的に行い、市民がよりよい生活習慣を身につけることにつなげる。	
○上記により、結果として脳血管疾患や心疾患等による死亡が減少する。	

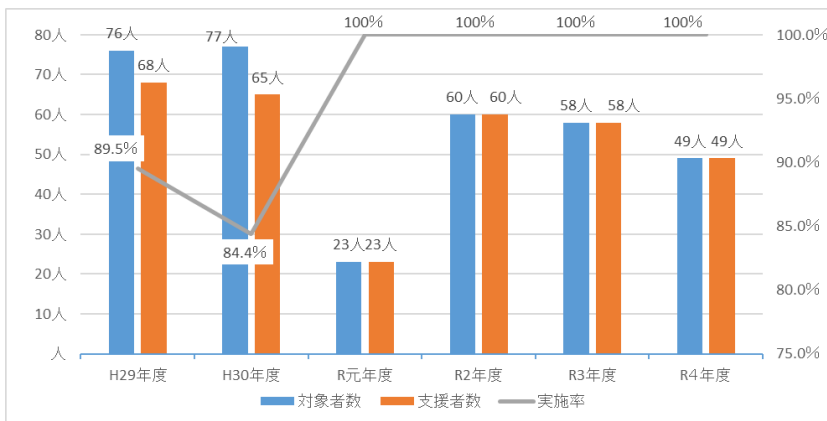
項目	目標項目	H20-24	H25-29	目標値
12	脳血管疾患の標準化死亡比(SMR)	男 91.4	男 80.9	現状値より減少
		女 55.6	女 84.9	
13	心疾患の標準化死亡比(SMR)	男 108.6	男 104.0	100 未満
		女 101.4	女 103.3	

※次回更新は令和7年度

項目	目標項目	H29年度 (2017)	H30年度 (2018)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	目標値
14	収縮期血圧(平均値)	男 131.6 mmHg	男 131.7 mmHg	男 130.4 mmHg	男 132.1 mmHg	男 131.3 mmHg	R5 11月確定	男 128.5 mmHg 女 127.4 mmHg H20年度比 4 mmHg 低下
		女 129.0 mmHg	女 128.1 mmHg	女 128.2 mmHg	女 129.3 mmHg	女 129.3 mmHg	R5 11月確定	
15	血圧高値(収縮期血圧 160 mmHg 以上または拡張期血圧が 100 mmHg 以上)の者の割合(服薬者含む)	男 6.0%	男 6.5%	男 4.2%	男 6.6%	男 7.0%	R5 11月確定	男 4.6% 女 3.0% H24年度比半減
		女 5.0%	女 4.6%	女 3.6%	女 4.9%	女 5.6%	R5 11月確定	
16	血圧高値(収縮期血圧 180 mmHg 以上または拡張期血圧が 110 mmHg 以上)の者の割合(服薬者含む)	男 0.7%	男 0.7%	男 0.9%	男 1.4%	男 1.0%	R5 11月確定	男 0.6% 女 0.5% H24年度比半減
		女 0.8%	女 0.7%	女 0.7%	女 0.7%	女 0.5%	R5 11月確定	

項目	目標項目	H29年度 (2017)	H30年度 (2018)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	目標値
17	脂質異常 (LDL コレステロール 140mg/dl 以上) の者の割合 (服薬者含む)	男 21.4%	男 23.4%	男 23.2%	男 25.0%	男 23.6%	R5 11月確定	男 19.3% 女 21.5% H29 年度比 10%減
		女 23.9%	女 28.5%	女 27.2%	女 29.3%	女 26.9%	R5 11月確定	
18	メタボリック シンドローム の該当者及び 予備群の割合	該当者 19.8%	該当者 20.7%	該当者 21.0%	該当者 21.7%	該当者 21.0%	R5 11月確定	該当者 14.8% 予備群 10.1% H20 年度比 25%減
		予備群 13.0%	予備群 13.0%	予備群 14.0%	予備群 12.4%	予備群 12.6%	R5 11月確定	

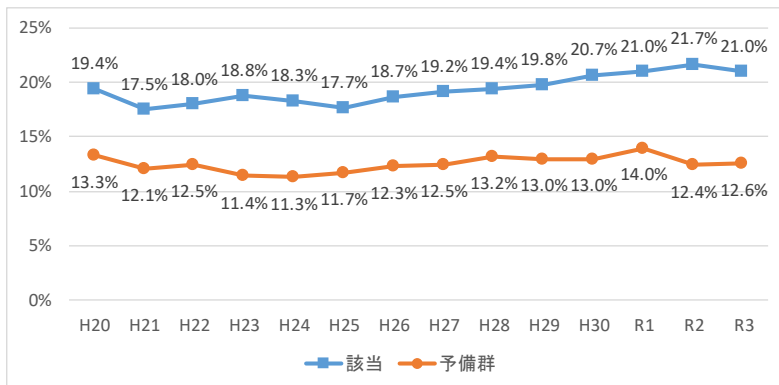
図表5 ハイリスクアプローチ (早期受診勧奨)



【対象者】
~H28年度
 血圧 (180/110 以上)
 血糖 (HbA1c8.0%以上)
 (55歳未満かつ 180mg/dl 以上)
 肝機能 (GOT・GPT100IU/l 以上)
H30年度
 血糖 (HbA1c7.0%以上)
R元年度
 レセプトを確認のうえで、未受診者に
 受診勧奨
R4年度
 脂質 (55歳未満→60歳未満へ)

【目標値】 (データヘルス計画)
 保健指導実施率 85%

図表6 メタボリックシンドローム 該当者・予備群の推移



【令和4年度計画】

- 新たなハイリスク対象者基準を決定 (LDL コレステロール対象の年齢を 55 歳から 60 歳未満に引き上げ。高血圧・脂質異常・糖尿病の危険因子が重複している者)
- 令和3年度ハイリスク対象者のうち医療機関未受診者で、令和4年度も医療機関未受診・健診未受診の者に対し、継続的に介入

- ・結果同封の受診勧奨チラシのデザインを変更
- ・若い世代の方へも啓発できるよう、動画配信による啓発を実施

【令和4年度取組みと評価】

- ・健診結果同封の受診勧奨チラシをより意識してもらえるデザインに変更し、受診意識の向上につなげることができた。
- ・健康づくり推進月間（11月）に循環器疾患に関連する啓発動画「メタボって病気?!～ただ太っているだけじゃない～」を作成し、ホームページ上で公開した。1,424回の視聴回数となり、メタボリックシンドロームの原因や特定健診の必要性について啓発できた。また、市内公共施設や市役所内でデジタルサイネージやビデオ放映し、健康まつりでも同動画を放映した。これにより、インターネット上以外の啓発も行うことができた。
- ・ハイリスクアプローチとして、健診の結果、市で定めた基準に該当し受診が必要な者に対して、保健師と栄養士が受診勧奨や保健指導を行った。新型コロナウイルス感染症の影響で、電話中心の支援であったが、健診結果送付の時期にアプローチし、受診の必要性の意識づけにつなげることができた。
- ・新たなハイリスク者基準を設け、(①LDLコレステロール対象の年齢を55歳から60歳未満に引き上げ。②高血圧・脂質異常・糖尿病の危険因子が重複している者)アプローチを実施した。これにより、より幅広い対象や生活習慣病重症化予防の支援が行えた。
- ・令和3年度ハイリスク対象者・医療機関未受診者で、令和4年度も医療機関未受診・健診未受診者に対して介入した。これにより、対象者が自分の身体の状態を改めて考える機会につながったが、医療機関も健診も受診のない者もいた。

【令和5年度に向けた課題】

- ・経年的にみると血圧、脂質において、全体として横ばいまたは悪化している。また、メタボリックシンドロームの予備軍は減少しているが、その他の目標項目が悪化していることから、メタボリックシンドローム該当者に移行している可能性がある。ハイリスク対象者に対して、生活習慣病や循環器疾患を予防するための受診勧奨強化を行う必要がある。
- ・引き続き、市民全体に、生活習慣病予防に関する啓発を行っていく必要がある。
- ・ハイリスク対象者の受診への意識づけを強化をしていく必要がある。

【令和5年度計画】

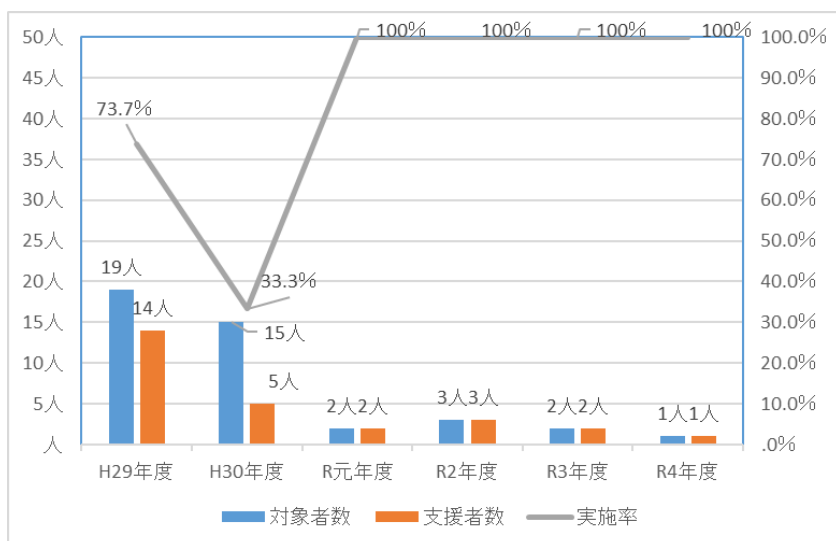
- ・ハイリスク対象者への医療受診につなげるアプローチとして、コロナ禍による電話中心から訪問を強化する。また、健診結果をグラフ化したり課で作成した啓発動画の案内を対象者にわかりやすい文書で送付する等、効果的な介入方法を実施
- ・集団健診実施機関と連携し、前年度（令和4年度）ハイリスク対象者で医療機関未受診・健診未受診の者が健診を受診した場合、当日に医師や保健師からの受診勧奨を実施
- ・国立循環器病研究センターと連携した市民公開講座を実施し、心筋梗塞の予防や発症時の受診体制の周知など、「STOP MI キャンペーン」を実施し、さらにイベント等で周知・啓発
- ・生活習慣病予防に関する情報発信を、広報やホームページ、市役所内でのビデオ放映、イベント等で実施

(4) 糖尿病対策、慢性腎臓病（CKD）対策の推進

目標	
○健診結果で血糖が高値だった場合、生活習慣の改善及び必要時に医療機関を受診することにより、重症化を予防する。	
○重症化予防に取り組み、糖尿病による合併症を予防する。	
○腎機能低下がみられた際には、主治医と連携し、腎専門医への受診勧奨や生活指導を行うことにより、末期腎不全への進行を遅らせる。	

項目	目標項目	H29年度 (2017)	H30年度 (2018)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	目標値
19	血糖高値の者の割合 空腹時血糖値 ≥ 126mg/dl 随時血糖値 ≥ 200mg/dl HbA1c (NGS P) ≥ 6.5%	9.3%	9.9%	11.3%	10.7%	9.5%	R5 11月確定	8.7% 未満 H27年度から 減少

図表7 CKDアプローチ（腎症重症化予防）



【対象者】

～H28年度

e-GFR 基準値に該当する者

H29年度

e-GFR の下限を 15 とした

e-GFR 基準値該当者かつ尿蛋白+

以上で人工透析者を除く

H30年度

人工透析者等を除く

R元年度

レセプトの主病名が腎疾患で治療中、

透析、腎専門医受診中は除く

【目標値】（データヘルス計画）

保健指導実施率 85%以上

【令和4年度計画】

- ・令和3年度のハイリスク対象者のうち医療機関未受診者で、令和4年度も医療機関未受診・健診未受診者に対して、再度電話や訪問等で継続的に介入
- ・受診勧奨通知のデザインを変更し、結果到着時に目に留まりやすい工夫
- ・引き続き、動画配信による生活習慣病の啓発を実施
- ・CKD 対象者について、腎専門医紹介基準の整理、担当者間で周知・統一

【令和4年度取組みと評価】

- 健診結果同封の受診勧奨チラシをより意識してもらえるデザインに変更し、受診意識の向上につなげることができた。
- 健康づくり推進月間（11月）に糖尿病にも関連する啓発動画「メタボって病気?!～ただ太っているだけじゃない～」を作成し、ホームページ上で公開し、1,424回の視聴回数となりメタボリックシンドロームの要因でもある糖尿病についてでも啓発した。また、市内公共施設や市役所内でデジタルサイネージやビデオ放映し、健康まつりでも同動画を放映した。これにより、インターネット上以外の啓発も行うことができた。
- ハイリスクアプローチとして、健診の結果、市で定めた基準に該当し受診が必要な者に対して、保健師と栄養士が受診勧奨や保健指導を行った。新型コロナウイルス感染症の影響で、電話中心の支援であったが、健診結果送付の時期にアプローチし、受診の必要性の意識づけにつなげることができた。
- 新たなハイリスク者基準を設け、（高血圧・脂質異常・糖尿病の危険因子が重複している者）アプローチを実施した。これにより、糖尿病重症化予防の支援が行えた。
- 令和3年度ハイリスク対象者・医療機関未受診者で、令和4年度も医療機関未受診・健診未受診者に対して介入した。これにより、対象者が自分の身体の状態を改めて考える機会につながったが、医療機関も健診も受診のない者もいた。
- 令和4年度におけるCKDのハイリスク対象者は1人であったが、すでに腎専門医を受診していた。前年度にアプローチしている者であったため、これまでのアプローチにより継続的な医療受診につながっていると言える。

【令和5年度に向けた課題】

- 目標項目において、前年度に比べ改善しているも、経年的にみると横ばいまたは悪化している。ハイリスク対象者に対して、重症化や合併症を予防するための受診勧奨強化を行う必要がある。

【令和5年度計画】

- ハイリスク対象者への医療受診につなげるアプローチとして、コロナ禍による電話中心から訪問を強化する。また、健診結果の状態をグラフ化したり課で作成した啓発動画の案内など対象者にわかりやすい文書を送付する等、効果的な介入方法を実施
- 集団健診実施機関と連携し、前年度（令和4年度）ハイリスク対象者で医療機関未受診・健診未受診の者が健診を受診した場合、当日に医師や保健師からの受診勧奨を実施

2 生活習慣の改善

(1) 栄養・食生活

目標	
○子どもの頃から、食の楽しみを知り食に対する関心を深めるとともに、正しい食習慣を身につけることができるよう、食育を推進する。	
○栄養・食生活に関する情報発信を強化していくことで、正しい知識の普及に努め、食生活の改善を図ることにより、生活習慣病の予防や改善につなげる。	
○必要時には、専門職による個別支援を行い、食生活の改善を図り、生活習慣病の重症化予防を行う。	

項目	目標項目	H30 年度 (2018)	次回 アンケート結 果	目標値
21	共食（夕食）の割合（小5）	96.4%		現状値より 上昇
	共食（夕食）の割合（中2）	94.4%		
23	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事1日2回以上の割合	42.9%		73.5%
24	薄味にしている人の割合	34.6%		41.7%

項目	目標項目	H28 年度 (2016)	H29 年度 (2017)	H30 年度 (2018)	R元 年度 (2019)	R2 年度 (2020)	R3 年度 (2021)	R4 年度 (2022)	目標値
20	朝食を毎日 食べている 割合（小6）	81.7%	81.9%	80.1%	80.6%	-	83.4%	83.9%	現状値 より上 昇
	朝食を毎日 食べている 割合（中3）	79.1%	79.5%	72.5%	75.3%	-	78.4%	74.4%	
22	離乳食講習 会の参加率 （第1子）	48.5%	48.7%	48.2%	43%	36.5%	41.2%	R5 10月確定	60%

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、項目20の大阪府学力・学習状況調査の実施なし。

【令和4年度計画】

- ・料理レシピサービス「クックパッド」に市公式キッチンを開設し、あらゆる世代に向けた栄養・食生活に関する情報発信を強化
- ・栄養・食生活からフレイル予防の情報発信を行うために、一人暮らし高齢者向けのレシピブックを作成

【令和4年度取組みと評価】

- ・毎月19日にホームページを更新し、栄養・食育に関する情報を発信した。
- ・7月に料理レシピサービス「クックパッド」に市公式キッチンを開設し、離乳食、フレイル予防などのレシピを掲載し、幅広い世代に情報発信を行うことができた。3月末時点で39品のレシピを投稿し、延べ10万回を超えるアクセスがあった。

- 健康づくり推進月間に、メタボをテーマとした啓発動画を作成し、食事に関する内容を盛り込み健康づくり推進月間に動画を配信した。1,424回の動画視聴回数となり多くの方に食育や健康づくりの観点から栄養・食生活について啓発ができた。アンケートでも高評価を得た。
- 年間3回、全市的にできる食育啓発として減塩をテーマに共通食材や共通献立の提供を教育委員会と連携して実施した。
- 学官連携事業として大阪成蹊短期大学と「高齢者のためのフレイル予防レシピブック」を作成した。
- 市内保育施設向けに食育事業に力を入れている企業と連携した食育出前講座を実施し、幅広いテーマの情報提供や日々の食育に携わる機関の資質向上にも寄与できた。
- 健診後のハイリスク対象者に対して、個別に訪問や電話、手紙などで受診勧奨や栄養指導を実施した。

【令和5年度に向けた課題】

- 学校現場でもICT（教育委員会 YouTube チャンネル）活用した食育を実施している状況である。時代のニーズに合わせたICTをより活用した食育啓発を行う必要がある。
- コロナの影響により控えていた自主組織等の活動を再開するにあたり、市民同士のつながりを強化しながら、栄養・食生活を考えるきっかけづくりの場を作る必要がある。

【令和5年度計画】

- 「高齢者のためのフレイル予防レシピブック」を活用し、高齢者を対象としたフレイル予防のための正しい知識提供を行う。
- 栄養、食生活の情報発信のツールとして認知度を高めるために、庁内外関係各所と連携し地場産物、給食、離乳食に関するレシピをクックパッドの市公式キッチンへ掲載する。また小中学校へチラシの配布し広報する。
- 新型コロナウイルス感染症流行前に実施のあった調理実習を活用し、対面でも栄養、食生活について健康意識を高める。

(2) 運動・身体活動、社会環境

目標	
○市民に働きかけ、日常生活における身体活動・運動量を増やしていく。	
○ウォーキングコースなどを活用した取組みを推進する。	
○健康づくりに取り組む自主組織数を増加し、住み慣れた地域での活動を通じて、社会参加につながるよう支援を行う。	

項目	目標項目		H29 年度 (2017)	H30 年度 (2018)	R元 年度 (2019)	R2 年度 (2020)	R3 年度 (2021)	R4 年度 (2022)	目標値
25	運動の継続 1 回 30分・週 2 日・1年以上	男	46.0%	45.7%	43.7%	44.0%	44.3%	R5 11月確定	55.3%
		女	43.5%	42.0%	41.6%	41.8%	42.7%	R5 11月確定	48.5%
26	身体活動 日常生活で歩 行又は同等の 身体活動 1時 間/日以上実施	男	58.1%	58.6%	60.2%	54.8%	55.5%	R5年 11月確定	63.5%
		女	59.1%	59.3%	57.4%	58.9%	57.3%	R5年 11月確定	61.0%
27	健康づくり自主組 織数		53 団体	57 団体	58 団体	57 団体	51 団体	49 団体	90 団体

【令和4年度計画】

- ・密にならず、安全で手軽にできるウォーキング方法について、その効果や正しい歩き方を改めて周知できるように、動画を作成し、配信する。また、ウォーキングコースの紹介や、健康器具の使い方についても紹介
- ・市内ウォーキングコース全てを一覧できるマップを作成し、市内で手軽にできる運動、またその方法についてさまざまな機会に周知

【令和4年度取組みと評価】

- ・令和3年度は新型コロナウイルス感染症による影響が大きかったが、令和4年度は天候による中止のみで実施できたが参加者は少なかった。
- ・参加者を増やすために「健幸マイレージ」ポイントだけでなく、11月から「おおさか健活マイレージアスマイル」ポイントも参加者特典とし、ホームページ・チラシ等で周知した。参加者は増加傾向にあった。
- ・健康づくり推進月間に啓発動画「ウォーキングであなたも変わる！小さな一歩が健康への近道」「摂津市ウォーキングコース&おすすめ健康器具」を作成し、それぞれ1,191回・1,176回の動画視聴回数を記録した。(健康づくり推進月間である11月のみの記録)アンケートでも高評価を得た。
- ・健康まつりでは作成した動画を利用し、歩き方講座を実施。感染症対策のため、小規模開催であったため、参加者は37名(半数以上が高齢者)のみであったが、運動作りのきっかけづくりができた。
- ・ウォーキングコース10コースを掲載したMAPを作成し、各コースMAPと共に各イベントで配布した。健康器具の箇所を記載したことで健康器具に関する周知へもつながられた。

【令和5年度に向けた課題】

- これまでに作成した動画やMAPを有効活用し、幅広い世代へ向けた運動の周知方法を検討や、若い時期からの運動習慣が大切であることを周知していく必要がある。
- ウォーキングコースや健康器具の活用を促し、運動を習慣化できるように周知啓発を引き続き実施する。
- 実施コースによる参加者状況の詳しい分析ができていない状況である。

【令和5年度計画】

- 毎月1回（熱中症対策のため夏季中止）うきうきせつつウォーキングを引き続き開催する
- 健康マイレージの申込み者へウォーキングコースや健康器具の周知啓発を強化し、市民の身体活動、運動量の向上を図る
- 健康器具の使用方法に関するホームページを作成
- 実施コースによる参加者状況の詳しい分析をする

(3) 休養・睡眠

目標	
○適切な睡眠のとり方について知り、睡眠による休養がとれるようになることで、こころの不調や生活習慣病を予防する。	

項目	目標項目		H29 年度 (2017)	H30 年度 (2018)	R元 年度 (2019)	R2 年度 (2020)	R3 年度 (2021)	R4 年度 (2022)	目標値
28	睡眠による休養を十分とれていない者の割合	男	27.3%	27.3%	27.9%	28.0%	28.0%	R5 11月確定	20% 未満
		女	31.6%	32.0%	31.9%	30.7%	32.4%	R5 11月確定	

【令和4年度計画】

- ホームページ、広報紙での啓発。動画への誘導
- 健康まつりやリハビリサロン等で、睡眠や休養に関する情報を引き続き啓発

【令和4年度取組みと評価】

- ホームページ内に休養や睡眠の必要性について掲載した。また、同ホームページ内で、令和3年度に作成した睡眠に関する動画を配信しており、前年度から約300回増の視聴があった。これにより、適切な睡眠のとり方の啓発につながられた。
- 地域の高齢者が集うリハビリサロンで保健師が睡眠に関する講話を実施した。市民に直接睡眠の重要性を伝えたことで、睡眠に関する意識向上が期待できる。

【令和5年度に向けた課題】

- 「睡眠による休養を十分にとれていない」と回答した男性・女性の割合が増加傾向にある。そのため、市民へ睡眠の重要性を啓発していく必要がある。

【令和5年度計画】

- ・前年度に引き続きホームページ、広報紙、動画での啓発を行うとともに、健康まつりやリハビリサロン等、対面でも睡眠や休養に関して情報発信し、不眠が続く場合には受診が重要であることも啓発する。
- ・自殺予防週間にあわせて睡眠・休養の大切さも啓発する。

(4) こころの健康

目標	
○ストレスへの対処法を知り、実践することができるようになる。	
○メンタル不調を感じた時に、一人で悩みを抱えることなく相談や、医療機関への受診ができる。	
○地域でつながりを持ち、孤立することなく生活ができる。	
○上記により、自殺に追い込まれないよう支援する。	

項目	目標項目		H30年度 (2018)	次回 アンケート結果	目標値
29	ストレスが多いと感じている者の割合	男	16.8%		20% 未満
	ストレスが多いと感じている者の割合	女	23.2%		

項目	目標項目	H29 年度 (2017)	H30 年度 (2018)	R元 年度 (2019)	R2 年度 (2020)	R3 年度 (2021)	R4 年度 (2022)	目標値
30	摂津市の自殺者数 (人口動態統計)	11人	20人	13人	16人	11人	現時点で 未公開	0人

【令和4年度計画】

- ・働く世代や若年層にもアクセスビリティな方法として、SNS を利用した相談先をホームページに追加記載
- ・医療機関への受診が必要と思われるケースに関しては、受診できる医療機関の情報提供したり、茨木保健所による「こころの健康相談」を紹介するなど、引き続き連携を図る
- ・引き続き、9月（自殺予防週間）と3月（自殺対策強化月間）に、こころの健康について広報紙に掲載するとともに、2月には、相談先に関する啓発チラシを自治会を通じて回覧し、より多くの市民の方に啓発
- ・摂津市の自殺者の状況について、庁内の相談業務代表者会議で共有し連携していく。
- ・産後ケア事業および産前産後ヘルパー事業の充実を図る

【令和4年度取組みと評価】

- ・9月（自殺予防週間）と3月（自殺対策強化月間）に、こころの健康に関する相談窓口を広報紙に掲載し周知した。9月の自殺予防週間には、市内公共機関に啓発ポスターの掲示を依頼した。また、3月の自殺対策強化月間には、こころの不調や相談窓口に関するチラシを市内各自治会に回覧した。これにより、こころの健康に関して広く啓発することができた。
- ・新たな SNS 相談窓口をホームページや広報紙にて市民に周知したことで、若者が相談しやすい体制

づくりができた。

- 精神的不安のある方、またその家族からの相談は随時対応し、必要に応じて精神病院への受診勧奨や茨木保健所の「こころの健康相談」に繋いだ。これにより、当事者が孤立しない支援につながっている。
- 摂津市の自殺者の特性について、庁内会議で共有したことで、対象者に関わる関係課間で自殺問題への意識が高まった。
- 産後ケアが利用できる事業所を2か所増やし（6→8）、訪問型支援も追加した。また利用しやすい環境を整備し、産婦の産後うつ予防に努め、妊産婦に対して、産前産後ヘルパー事業を実施し、産後うつの予防に努めた。

【令和5年度に向けた課題】

- 前年度に比べ、自殺者は減少しているが、依然目標には達していない。そのため、引き続きこころの健康に関し、市民に啓発していく必要がある。
- 摂津市の自殺者の特徴としては、高齢者が多く、危機経路としては失業、生活苦、介護の悩みが多い。（地域自殺実態プロファイル2022）一つの機関ではなく、関係機関で共有していく必要がある。
- 継続して産後うつの予防、早期発見、早期支援を実施する。

【令和5年度計画】

- 医療機関への受診が必要と思われるケースに関しては、受診勧奨や茨木保健所による「こころの健康相談」を紹介するなど、引き続き連携を図り、相談・受診体制を整える。
- 引き続き、9月（自殺予防週間）と3月（自殺対策強化月間）に、こころの健康について広報紙やホームページに掲載するとともに、相談先に関する啓発チラシをイベントや自治会回覧で配布し、より多くの市民の方に啓発
- 摂津市の自殺者の状況について、庁内会議で共有し連携
- 地域でつながりを持てるよう、高齢者に関わる方向けの、ゲートキーパーの講習会や講演会の開催
- 産後ケア事業および産前産後ヘルパー事業の充実を図る

(5) 喫煙

目標	
○肺がん検診、特定健診、母子健康手帳交付時など、様々な機会を活用し、喫煙者に対して禁煙を提案していく。	
○禁煙を希望する場合は、禁煙治療の紹介などの禁煙サポートを実施する。	
○たばこが健康に及ぼす影響について啓発を実施していく。	
○路上喫煙禁止地区を設定するとともに、健康増進法等に基づき啓発を行うことにより、受動喫煙防止対策を推進する。	

項目	目標項目	H29 年度 (2017)	H30 年度 (2018)	R元 年度 (2019)	R2 年度 (2020)	R3 年度 (2021)	R4 年度 (2022)	目標値
31	成人の喫煙率(男)	24.7%	24.2%	24.2%	22.6%	23.7%	R5年 11月確定	20%以下
	成人の喫煙率(女)	6.2%	6.2%	7.2%	6.9%	6.6%	R5年 11月確定	5%以下
32	妊婦の喫煙率	2.0%	1.1%	0.6%	1.9%	1.5%	1.3%	0%
33	市内公立学校における敷地内禁煙の割合	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
34	病院における敷地内禁煙の割合	50%	50%	75%	調査実施せず	75%	75%	100%
35	公共機関(市の施設)における敷地内禁煙の割合	建物内 禁煙 100%	建物内 禁煙 100%	敷地内 禁煙 100%	敷地内 禁煙 100%	敷地内 禁煙 100%	敷地内 禁煙 100%	敷地内禁煙 100%
36	路上喫煙禁止地区の設定	2か所	2カ所	3か所	3か所	3か所	3か所	4か所

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け項目34の調査は実施せず

【令和4年度計画】

- ・市の取組みなど、最新情報をホームページや広報紙に掲載し、周知を強化する。様々な機会を活用し、受動喫煙防止対策等の周知啓発を継続実施

【令和4年度取組みと評価】

- ・広報紙やポスター、ホームページ内容を更新し、随時周知啓発を行ったが、必要対象者への啓発活動が十分でない。
- ・妊娠届時に喫煙している妊婦とそのパートナーへ受動喫煙の周知啓発、禁煙指導を行った。
- ・乳幼児健診会場で保護者の喫煙と子どもへの影響について、情報提供を行った。
- ・ホームページで妊婦とたばこについての情報提供を行った。

【令和5年度に向けた課題】

- ・若年者等、幅広い世代へ啓発できる方法の検討。
- ・たばこに関する取組みを行い、周知を強化する。

【令和5年度計画】

- ・市の取組みなど最新情報をホームページや広報紙に掲載するとともに、新たにポスターを作成し、これを活用、周知の強化を図る。
- ・様々な機会を活用し、受動喫煙防止対策等の周知啓発、禁煙相談、情報提供を継続実施する。
- ・妊娠届時の面談、妊婦教室、乳幼児健診などをとおして、喫煙者への個別指導とポスター等の周知啓発を継続実施する。

(6) 飲酒

目標	
○飲酒が身体に及ぼす影響について啓発を行い、過度な飲酒を減らす。	
○妊婦の飲酒を防止するための働きかけを行う。	

項目	目標項目	H29 年度 (2017)	H30 年度 (2018)	R元 年度 (2019)	R2 年度 (2020)	R3 年度 (2021)	R4 年度 (2022)	目標値
37	純アルコール摂取量(1日あたり)が 男 40g 以上 女 20g 以上	男	15.0%	14.4%	19.1%	18.0%	16.7%	R5 11月確定 R5 11月確定 男 13.9%以下 女 4.7%以下 H26年度より 減少
		女	7.7%	6.9%	11.2%	11.3%	11.3%	
38	妊婦の飲酒率	0.2%	0.7%	0.1%	0.4%	0%	0.1%	0%

【令和4年度計画】

- ・ホームページに依存症別の記事を記載
- ・広報紙で定期的にアルコールを含めた依存症に関する記事、相談窓口を掲載
- ・二十歳のつどいで、アルコールを含めた依存症に関する啓発
- ・依存症に関する相談については、茨木保健所や医療機関、庁内の相談各課と連携・支援

【令和4年度取組みと評価】

- ・11月の広報紙において、アルコール関連問題啓発週間の記事を掲載し、市民に広く周知したことで、飲酒と健康について啓発することができた。
- ・ホームページにおいて、アルコール含めた依存症に関するページを作成した。これにより、市民にアルコール問題についてわかりやすく情報発信することができた。
- ・令和4年度はアルコールに関する相談は4件であったが、医療機関や茨木保健所と連携し、相談時の体制を整えている。
- ・妊娠届時の面談の中で、飲酒している妊婦へアルコールと胎児の影響等を伝え、保健指導を行った。
- ・ホームページで妊婦とアルコールについての情報提供を行った。
- ・二十歳のつどいで依存症を含めて周知啓発した。

【令和5年度に向けた課題】

- ・男性、女性ともに、過量飲酒者が令和元年に増加した。男性は令和元年から減少しているが、増加前まで戻り切っていない現状がある。女性は令和元年に上がった後、横ばいである。そのため、引き続き

きアルコール問題について啓発し、適正飲酒量やアルコール関連問題について啓発していく必要がある。

- 引き続き、飲酒や依存症に関する相談があった際に、スムーズに各医療機関や茨木保健所と連携し支援できる体制づくりが必要である。
- 妊婦へのアルコールに関する取り組みを行い、周知を強化する。

【令和5年度計画】

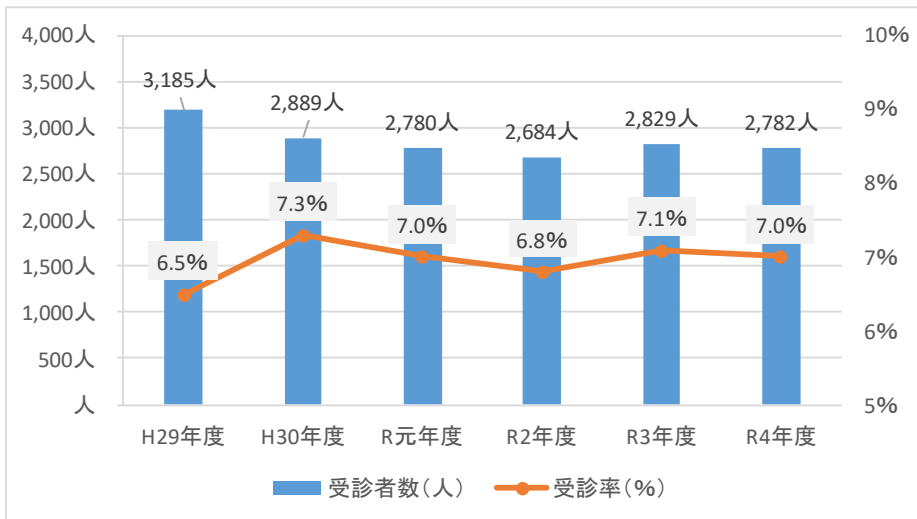
- 広報紙、ホームページで飲酒と健康や依存症に関する記事、依存症の相談窓口等を掲載する。また、イベントにて啓発チラシの配布やポスターを掲示
- 引き続き、二十歳のつどいで、アルコールを含めた依存症に関する啓発
- 飲酒や依存症に関する相談については、茨木保健所や医療機関と連携し、支援する
- 継続して妊娠届時の面談の中で、飲酒をしている妊婦への個別指導とホームページによる周知啓発

(7) 歯と口の健康

目標	
○歯と口の健康づくり推進のため、歯科健診受診率向上に取り組む。	
○啓発を行い、市民の歯と口の健康づくりの意識向上を図る。	

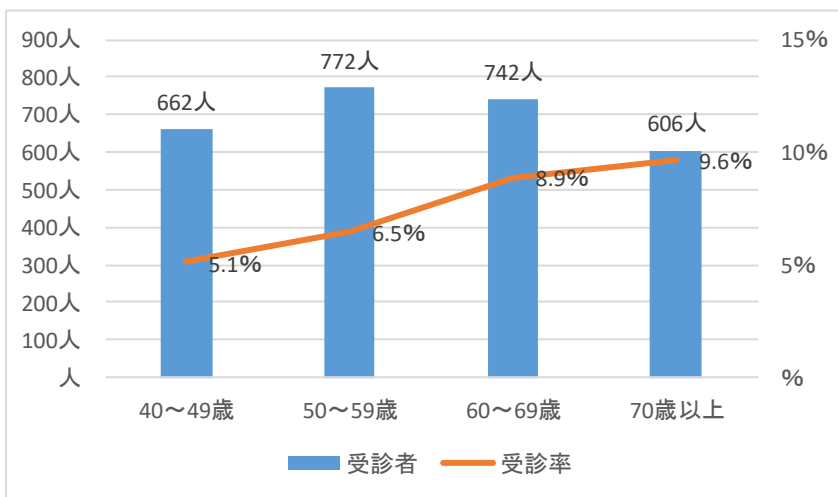
項目	目標項目	H29 年度 (2017)	H30 年度 (2018)	R元 年度 (2019)	R2 年度 (2020)	R3 年度 (2021)	R4 年度 (2022)	目標値
39	むし歯のない幼児 (3歳児)の割合	84.5%	86.0%	85.3%	88.8%	89.8%	90.5%	85%
40	過去1年間に歯科健 診を受診した割合	アンケート 未実施	63.1%	アンケート 未実施	アンケート 未実施	アンケート 未実施	アンケート 未実施	70%
41	1歳6か月児歯科健 診受診率	99.0%	97.4%	97.1%	99.5%	98.4%	97.6%	現状値 以上
42	2歳6か月児歯科健 診受診率	90.8%	93.1%	92.5%	94.5%	87.4%	93.4%	
43	3歳6か月児健診歯 科健診受診率	94.8%	93.2%	96.3%	99.3%	95.0%	97.0%	

図表 8 摂津市成人歯科健診の受診状況（参考値）上記表のデータはアンケートによるもの



※平成 30 年度から、後期高齢者歯科健診が開始となり、対象者が減少。

図表 9 摂津市歯科健診受診者年齢区分（令和 4 年度）

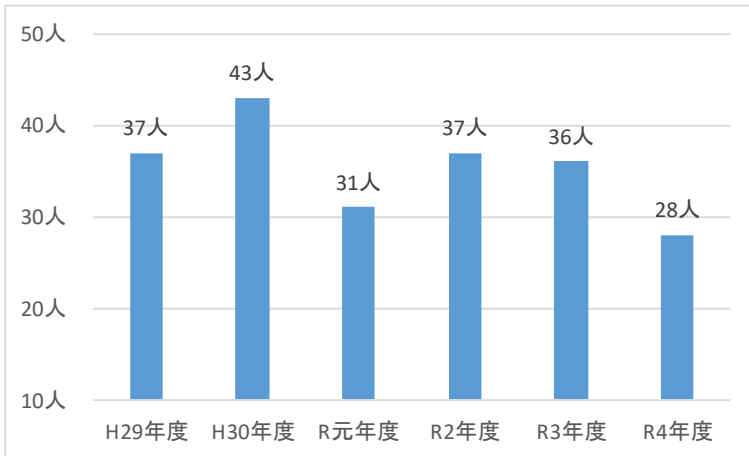


【参考】令和4年度実績	
40歳代	5.1%
50歳代	6.5%
60歳代	8.9%
70歳以上	9.6%

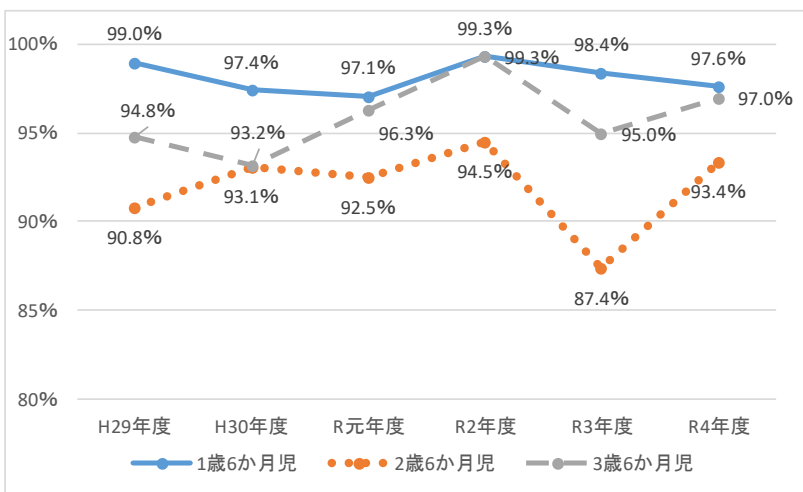
図表 10 摂津市歯科健診 無料クーポン利用者推移

	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年
40歳	14.7%	12.0%	16.6%	20.7%	14.6%
45歳	13.7%	12.5%	14.4%	14.4%	16.2%
50歳	13.2%	12.6%	15.0%	15.1%	16.2%
55歳	16.4%	16.3%	19.0%	17.3%	16.8%
60歳	15.5%	16.1%	17.8%	20.4%	21.0%
65歳	17.9%	16.3%	18.7%	18.6%	22.5%
70歳	17.1%	19.5%	18.3%	19.3%	22.7%
全体	15.3%	14.9%	16.8%	17.6%	18.2%

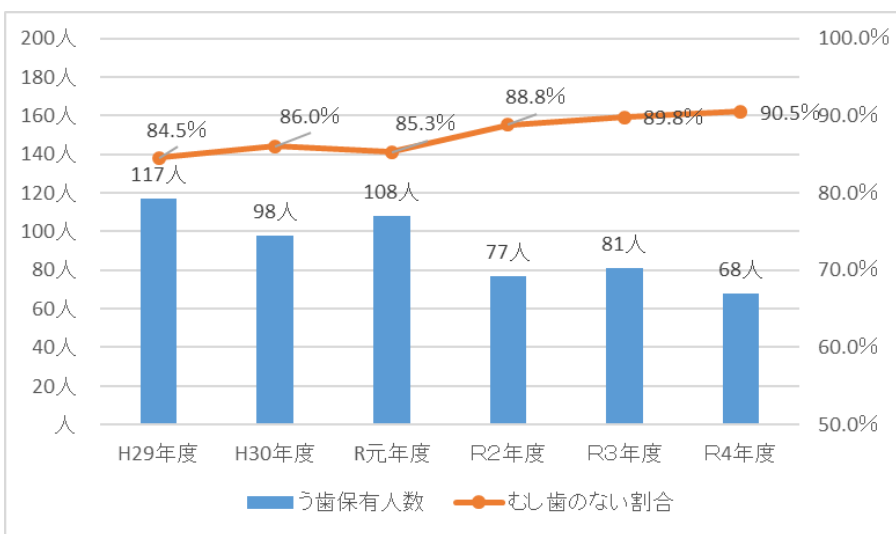
図表 11 摂津市高齢者訪問歯科健診 受診人数



図表 12 摂津市乳幼児健診における歯科健診受診率



図表 13 3歳児のう歯保有状況推移（3歳6か月児健診結果）
（※データは、う歯保有人数及びう歯が無い子どもの割合）



【令和4年度計画】

- ・受診勧奨ハガキを5月と1月に継続して送付
- ・歯科健診啓発のポスターの内容やデザインを変更
- ・5月の自治会回覧やイベント、その他、保健活動等で歯科健診の受診啓発
- ・日常の歯科保健の意識の啓発

【令和4年度取組みと評価】

（成人歯科健診）

- ・受診率の微増はみられ新型コロナウイルス感染症流行前の受診率まで回復しているが、70歳以上の受診率が伸び悩んでおり、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため歯科健診を控えた可能性が考えられる。
- ・無料クーポン受診者への未受診勧奨ハガキを、各健診（検診）が始まる5月に送付するとともに、1月にも再送付した。いずれも、送付の翌月には、無料クーポン対象者の受診者の増加がみられたため、受診率向上に一定の効果があると考えられる。
- ・成人歯科健診のポスター掲示・広報紙・自治会回覧（6月）・健診等に加え、イベント等さまざまな機会でも、チラシ配布し歯科健診の必要性を啓発した
- ・市ホームページに歯周病についての新しいページをつくり、う歯や歯周病が全身に影響する啓発ページを作成した。

（乳幼児歯科健診）

- ・乳幼児健診における歯科診察、1歳6か月児健診でのう蝕テスト、その結果を踏まえた2歳6か月児健診での歯磨き指導の個別支援を継続して行った。
- ・むし歯のない幼児（3歳児）の割合は目標値を達成した。

【令和5年度に向けた課題】

（成人歯科健診）

- ・う歯だけでなく歯周病も歯を失う原因になること、またう歯と同様に歯周病の罹患率が多いことの認識が低いと考えられる。成人歯科健診はう歯だけでなく歯周病の健診でもあることの認識してもらえ、啓発方法を検討する必要がある。

（乳幼児歯科健診）

- ・乳幼児歯科健診の受診率向上にむけて周知を強化する。

【令和5年度計画】

（成人歯科健診）

- ・受診勧奨ハガキを年2回から3回に増やし5月、10月、1月に送付
- ・う歯だけではなく歯周病予防についても内容も含め、歯科健診啓発のチラシを作成
- ・5月の自治会回覧やイベント、その他、保健活動等でオーラルフレイル予防や歯科健診の受診の必要性を周知啓発
- ・歯科健診の対象者について、他市町村の実施状況を分析し実施可能な体制づくりを協議

（乳幼児歯科健診）

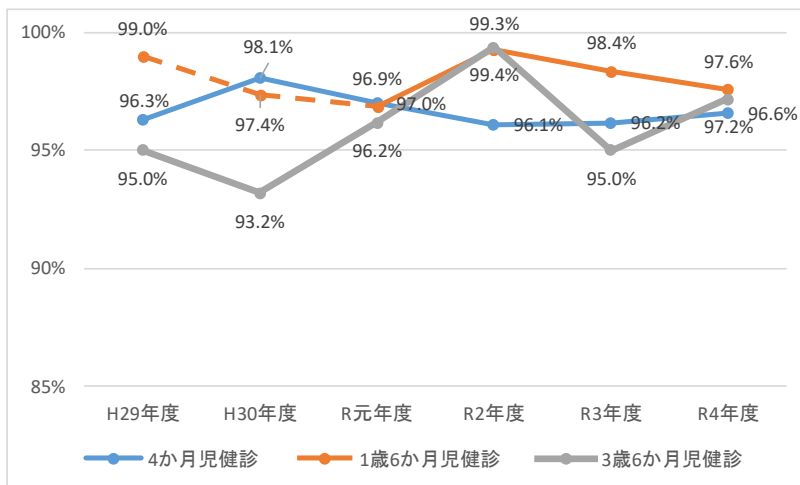
- ・個々の口腔状況に合わせた歯科衛生士の保健指導の充実
- ・乳幼児健診の受診勧奨の継続

(8) 母子保健

目標	
○妊娠期から保健師、助産師による面接、訪問等の支援を実施し、安心して妊娠・出産できる環境づくりを行います。	
○訪問、乳幼児健診などにおいて、発育、発達、育児などに関する不安解消のための相談ができる体制を作り、子どもの健やかな発達を支援します。	

項目	目標項目	H29年度 (2017)	H30年度 (2018)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	目標値
44	4か月児健診受診率	96.3%	98.1%	97.0%	96.1%	96.2%	96.6%	現状値 以上
45	1歳6か月児健診受診率	99.0%	97.4%	96.9%	99.3%	98.4%	97.6%	
46	3歳6か月児健診受診率	95.0%	93.2%	96.2%	99.4%	95.0%	97.2%	
47	こんにちは赤ちゃん訪問実施率	90.0%	90.3%	92.0%	87.4%	87.2%	87.3%	

図表 14 乳幼児健診受診率



【令和4年度計画】

- ・子育て世代包括支援センターの連携強化
- ・多胎妊産婦への支援体制の強化

【令和4年度取組みと評価】

- ・多胎妊産婦への妊婦健診受診券の追加交付（5枚）と多胎移動支援サポート事業の開始
- ・3歳6か月児健診において視力屈折検査機器の導入
- ・伴奏型支援及び出産・子育て応援給付金の開始
- ・産後ケア事業の対象者の拡充（生後4か月を1年未満の児に拡充、訪問型支援の追加）
- ・産前産後ヘルパーの事業の拡充（対象者を生後6か月から1年未満の児に拡充）

【課題】

- ・子育て期の早い時期から保護者同士のつながりを充実し、育児不安の解消につなげる
- ・子育て支援と母子保健の組織体制を強化し、切れ目のない支援体制の整備

【令和5年度に向けた計画】

- ・子ども家庭センターの設置にむけた児童福祉との連携強化

(9) 北大阪健康医療都市（健都）を中心とした健康・医療のまちづくり

目標
○北大阪健康医療都市（以下「健都」という。）を中心に、循環器病をはじめとする生活習慣病の予防と健康づくりの先進地域づくり（健康・医療のまちづくり）を推進する。
○「連携・協力に関する基本協定」を締結した国立循環器病研究センター（以下「国循」という。）をはじめ様々な主体との連携・協働を促進し、市民の疾病予防・健康づくりを推進する。
○国立健康・栄養研究所（以下「健栄研」という。）と協力し、市民に対する運動・栄養に関する情報発信を強化するとともに、生活習慣の改善、疾病予防、重症化予防に取り組む。

【令和4年度計画】

- ・関係者間で健栄研のスムーズな移転に向けた協議
- ・産学官民プラットフォーム事業のスムーズな共創の場への移行を踏まえ、引き続き、大阪府、吹田市、国循等の関係機関と協議
- ・市民参加型の地域実証事業を進め、市民に健康への気づきを体感してもらうため、より多くの方にサポーター登録を促していく。若い時からの健康の取り組みを促すためにも、若い世代へのサポーター登録数をより増やす取り組み

【令和4年度取り組みと評価】

- ・大阪府、吹田市と連絡・調整を図りながら取り組んだことで、令和5年3月に健都イノベーションパークにおいて健栄研の移転が完了し、同時期に連携協定を締結した。これにより健康づくりに関する連携した取り組みが実施できる基礎を作ることができた。
- ・健都ヘルスサポーターを含む産学官民プラットフォーム事業と共創の場拠点に融合した健都の新たな窓口となる新法人（健都共創支援機構）が設立され、令和5年4月より運用を開始した。
- ・市民の健康意識向上につながる健都ヘルスサポーターの新規獲得に向けたイベントや広報を実施し、令和5年3月末時点で1,000名を超える登録があった。これは、イベント時の周知を工夫したことで、30～40代の若い世代のサポーター獲得ができた。また、令和4年3月のサポーター運用から計4件の実証事業を実施できた。

【令和5年度に向けた課題】

- ・令和4年度に健栄研が移転し、本格的に摂津において様々な連携ができることとなった。今後、市民の健康に資する具体的な連携を図っていく必要がある。
- ・健都窓口となる健都共創支援機構と連携し、一体的な取り組みを実施すると共に、健都ヘルスサポーターを活用した実証事業の実施を進めていく必要がある。

【令和5年度計画】

- ・産学官民プラットフォーム事業の新たな担い手である健都共創機構によるスムーズな運営について、吹

田市とともに 3 社協議を行い、各種事業を実施する

- 健都における産学官民連携がより促進するよう、引き続き健都ヘルスサポーターの新規獲得と地域実証事業を進める
- 健栄研に市職員を派遣し、相互に連携を深めていく。調査・研究が主体事業などの取組みにより連携・協力を図る

第 3 期データヘルス計画の策定について

データヘルス計画は、国保被保険者の健康保持増進のため、レセプトデータや健診データを活用し、国保被保険者のニーズや特徴を踏まえた保健事業（特定健康診査や特定保健指導など）等を P D C A サイクルに基づき効果的に実施していくためのものです。

現行の計画（第 2 期データヘルス計画）は、平成 3 0 年度から令和 5 年度までの 6 年計画となっていることから、令和 6 年度からの次期計画を策定するものです。

○計画期間：令和 6 年度～令和 1 1 年度（6 年間）（予定）

○法的根拠：高齢者の医療の確保に関する法律第 18 条第 1 項

国民健康保険法第 82 条第 1 項

○進め方：摂津市国民健康保険運営協議会、国保連合会、健康づくり推進協議会等の関係機関への意見聴取のもと作成

○全体予定： 夏季：第 2 期総括（案）・第 3 期骨子（案）審議

秋季：第 2 期総括（最終案）・第 3 期骨子（素案）審議

年明け：第 3 期骨子（案）パブリックコメント

冬季：第 3 期骨子（最終案）審議

年度末：完成

第2期データヘルス計画の構成

I. 計画策定の背景
1. 事業目的
2. 計画期間
3. 他計画との関係
II. 摂津市の現状
1. 摂津市の周辺環境
(1) 地理的・社会的背景、医療アクセスの特徴
(2) 人口・被保険者の状況
(3) 平均寿命・健康寿命
(4) 標準化死亡率
(5) 要介護認定状況
2. 医療費分析
(1) 費用区分別医療費 (入院、入外+調剤、歯科、柔整など)
(2) 医療費順位の主要疾患別医療費
(3) 性別・年齢階級別の主要疾患患者数
(4) 後発医薬品の利用状況
3. 特定健診実施状況
(1) 特定健診受診の状況
(2) 特定健診受診者における健康・生活習慣の状況
III. 既存保健事業の評価
1. 特定健康診査未受診者対策事業
2. 特定保健指導
3. 若年者健診・保健指導（早期介入保健指導事業）
4. 非肥満高血圧高値者・血糖高値者受診勧奨推進事業
5 (1) 糖尿病性腎症重症化予防事業
(2) 糖尿病性腎症重症化予防栄養指導事業
6. 糖尿病予防教室
7. ハイリスクアプローチ
8. CKD（慢性腎臓病）アプローチ
9. 各種がん検診事業
10. 医療費通知および後発（ジェネリック）医薬品差額通知事業
IV. 摂津市第3期特定健康診査等実施計画
1. 計画策定の概要
2. 摂津市の現状
3. 第2期計画の評価と課題
4. 特定健診・特定保健指導の実施
5. 事業の円滑な実施に向けて
V. 健康課題
1. 重点課題
2. 健康課題および対応する保健事業・評価指標のまとめ
VI. 保健事業計画
1. 特定健診未受診者対策事業
2. 特定保健指導（未利用者対策事業）
3. 若年者健診・保健指導（早期介入保健指導事業）
4. 非肥満高血圧高値者・血糖高値者受診勧奨推進事業
5. ハイリスクアプローチ
6. 糖尿病予防教室
7. 糖尿病性腎症重症化予防事業 (糖尿病性腎症重症化予防栄養指導事業含む)
8. CKD（慢性腎臓病）アプローチ
9. 各種がん検診事業
10. 医療費通知および後発（ジェネリック）医薬品差額通知事業
VII. その他
1. 計画の評価方法
2. 計画の見直し
3. 計画の公表・周知に関する事項
4. 事業運営上の留意事項
5. 個人情報保護に関する事項
6. その他計画策定にあたっての留意事項
◆用語集
◆データ集

第3期データヘルス計画の構成

I. 計画策定の背景	変更理由
1. 事業目的	
2. 計画期間	
3. 他計画との関係	
4. 第2期データヘルス計画期間中の課題	第3期データヘルス計画で実施する保健事業の根拠となる第2期データヘルス計画における課題、実施の方向性を記載します。
II. 摂津市の現状	
1. 摂津市の周辺環境	
(1) 地理的・社会的背景、医療アクセスの特徴	
(2) 人口・被保険者の状況	
(3) 平均寿命・健康寿命	
(4) 標準化死亡率	
(5) 要介護認定状況	
2. 医療費分析	
(1) 費用区分別医療費 (入院、入外+調剤、歯科、柔整など)	
(2) 医療費順位の主要疾患別医療費	
(3) 性別・年齢階級別の主要疾患患者数	
(4) 後発医薬品の利用状況	
3. 特定健診実施状況	
(1) 摂津市第4期特定健康診査等実施計画	第3期データヘルス計画に第4期特定健診計画を包含するため追記
(2) 特定健診の受診状況	
(3) 特定健診受診者における健康・生活習慣の状況	
削除	第3期データヘルス計画の策定にあたり、第2期データヘルス計画の総括評価を実施し、第2期データヘルス計画における課題、実施の方向性を第3期計画のI. 4. に記載することを検討しています。 第3期計画の項目 I. 4.
(4) 特定保健指導実施状況	第3期データヘルス計画に第4期特定健診計画を包含するため追記
(5) 第4期特定健診計画の方向性	
第3期データヘルス計画に第4期特定健診計画を包含します。 第3期計画の項目 II. 3. (1)～(5)	
削除	第3期データヘルス計画の策定にあたり、第2期データヘルス計画の総括評価を実施し、第2期データヘルス計画における課題、実施の方向性を第3期計画のI. 4. に記載することを検討しています。 第3期計画の項目 I. 4.
III. 個別保健事業の取組	
1. 特定健康診査未受診者対策事業	
2. 特定保健指導	
3. 若年者健診・保健指導（早期介入保健指導事業）	
4. 非肥満高血圧高値者・血糖高値者受診勧奨推進事業	
5. 検討中	市の課題を踏まえて、生活習慣病予防等に係る事業を計画的に取り組むことができないか検討中
6. 検討中	
7. 糖尿病性腎症重症化予防事業 (糖尿病性腎症重症化予防栄養指導事業含む)	
8. CKD（慢性腎臓病）アプローチ	
9. 各種がん検診事業	
10. 検討中	医療費の抑制等の目的のために実施しているが、保健事業として記載すべきものなのか、記載方法、実施内容を検討中
IV. その他	
1. 計画の評価方法	
2. 計画の見直し	
3. 計画の公表・周知に関する事項	
4. 事業運営上の留意事項	
5. 個人情報保護に関する事項	
6. その他計画策定にあたっての留意事項	
◆用語集	
◆データ集	

